

OISA NEWS

OITA
INFORMATION
SERVICE INDUSTRY
ASSOCIATION

2014. 1

61

発行：大分県情報サービス産業協会
会長 森 秀文
<http://www.oisa.jp>
編集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス(株)内)
TEL (097) 537-5918
FAX (097) 534-4545
印刷：佐伯印刷株式会社

大分県情報サービス産業協会



CONTENTS

2014年迎春 森会長挨拶	2
第25回OISA技術交流会開催	3
第17回「技術研究会」発表会開催	4
第20回OISA研修委員会研修の実施	5
平成25年度 第1回視察研修旅行	5
第22回サウンズコンテスト	6
第19回OISAボウリング大会開催	8
新年例会のご案内	8



大分県情報サービス産業協会
会長 森 秀文

新年あけましておめでとうございます。

年末年始、いかがお過ごしでしたでしょうか。それぞれの過ごし方で英気を養い、清々しい新年をお迎えの事と思います。

当協会は、すでにご案内のとおり県内に事業所をおくIT、ICT会社、大手メーカー等約60社で構成され、官学の皆様との連携もさらに強化されてきたところがあります。改めまして本年も会員各社の皆様そして関係機関及び関連団体の皆様のご指導、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

ところで、日本は高度情報化社会であるとともに「高齢社会」から「超高齢社会」に入ったとも言われ、少子化や労働人口の減少への対策が大きな社会的課題になっています。また、市場の国際化が進み、多くの企業は「国際競争力」が問われる時代になりました。どの産業においても、持続的な成長と安定的な雇用を実現するために、時代の変化に対応した、より付加価値の高いビジネスモデルが必要となります。

さて、情報産業は、社会のあらゆる分野と接点を持つ「横断的なインフラ産業」となりました。現在IT関連のビジネスはインターネットを中心に5年前、10年前の予想を超えた進展を見せています。同様に、今後も現在の予想をはるかに超えた様々なITサービスが出現し、ビジネスチャンスが生まれ、新しい高度情報化社会が形成されていくと予想されます。

その様な中、今年の流行語大賞は50の候補語から「お・も・て・な・し」などが選ばれました。候補になった言葉を見ますと「マイナンバー」、「ネット選挙」、「ビッグデータ」、といったIT関連のワードも見られました。

マイナンバー制度は昨年法案が国会を通り、いよいよ導入が決まった社会保障・税番号制度のことで、大きな国家プロジェクトであります。ネット選挙は、今年の参議院選で解禁されたインターネット選挙運動の事で、思うように投票率に結びつかなかったことや、積極的に取り入れた候補者が落選したケースもあり話題を呼びました。そして、ビッグデータですが、確かに多くのITベンダーがビッグデータへの参入を表明し市場が盛り上がっている様にも見えます。しかし、ほとんどの企業がビッグデータの活用に未だ決定打を見出せずにいます。パスワードで終わらないようにしたいものです。

そして、この4月から消費税率が8%になります。私ども国民には何とも頭の痛い話ではありますが、様々な業務システムの改修が発生し、ビジネスチャンスと言えます。同じく4月にはウィンドウズXPのサポートが終了します。これらはIT業界にとって明るい状況であると同時に社会生活と密着した「インフラ」業務を担うということは同時に責任も発生する訳であり、うまくいって当たり前、ミスが出れば批判の対象となることを十分自覚し対処すべきであります。

さて、新年あけて早々に当協会の行事が予定されています。まず恒例の新年例会は1月22日にトキハ会館にて開催し、講演は「大分学研究会」の代表理事の樽本譲司氏に、「瀬戸内を活かしてきた大分の先人たち」と題して、大分県の歴史や人材、観光などの魅力についてお話しいただきます。

1月24日は視察研修旅行が実施されます。年2回の実施で、個人ではなかなか見学の機会のない企業を訪問でき、見識を広める良い機会となっています。

別大マラソンの給水ボランティアも参加3年目となり会員企業からの参加者も年々増加、今年は160名の参加が見込まれています。全ボランティアの15%くらいを占める程の人数規模となります。

その他、今年も数多くの活動や行事が予定されています。各委員会の精力的な活動に感謝いたしますとともに今年も多くの会員企業の皆様の参加をお願いいたします。

最後に、皆様にとりまして2014年が夢と希望に満ちた素晴らしい年でありますように、心からご祈念を申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

第25回 O I S A 技術交流会開催

テーマ：「ハイブリッドクラウドでビジネスが変わる ～クラウド活用の現実解～」

講師：ニフティ株式会社 クラウド本部クラウド事業部 事業部長 上野貴也氏

日時：平成25年12月4日（水） 13：30～15：20

場所：大分商工会議所ビル 6F大ホール

OISA技術交流会は、業界の最新技術動向について、産学官の先進的な研究成果やノウハウを持つ講師を招くことにより、大分県における情報サービス関連技術の向上及び発展を促し、更なる振興を図る事を目的に毎年開催されています。

25回目を迎える今回は、講師にニフティ株式会社の上野貴也氏をお迎えして、「ハイブリッドクラウドでビジネスが変わる ～クラウド活用の現実解～」と題し講演をいただきました。今回は19団体91名の参加をいただき、大変活況を呈しました。

【講師プロフィール】

インターネットサービスプロバイダー@niftyにて数千台規模におよぶインフラ基盤の企画・設計に携わり、システム標準化、仮想化統合およびデータ統合などのプロジェクト・リーダーを歴任。

それらのノウハウをベースとして、2010年にニフティクラウド事業を立ち上げ、現在までに2000件超のユーザーを抱える国内最大級のパブリッククラウドサービスへと成長するに至る。

2012年、ニフティ株式会社 クラウド本部クラウド事業部 事業部長に就任。

【講演内容】

1. ニフティ社の歩み

ニフティ社は1980年代からパソコン通信事業を開始し、1990年代はインターネット接続サービスを開始、2000年代にWebサービス事業、2010年からは、ISPやWebサービスで培ったインフラ資産・ノウハウを活かし、クラウド事業を開始した。ニフティクラウド利用数は、サービス提供から3年で2000案件を突破、2012年の売り上げは前年比194%という実績を挙げている。

2. 情報システム部門のチャレンジ

IT技術の進化はめざましく、我々の日常生活を変えていく力を持っている。ビジネス競争に勝つためには、クラウド（柔軟性）、アジャイル（俊敏性）、ビッグデータ（確かさ、未来予



測）といったIT技術が不可欠となった。

このような時代、情報システム部門は、業務部門へITサービスを提供することにより経営に貢献する、サービス提供者としての意識の変革が求められている。情報システム部門のミッションは、価値の向上とコストダウンの実現である。

3. パブリッククラウドとプライベートクラウド

クラウドの利用については、一般にインターネットを経由して利用される「パブリッククラウド」と、企業が自社内でクラウドシステムを構築して企業内の部門やグループ企業にサービスを提供する「プライベートクラウド」に分類される。

パブリッククラウドの特徴は、コストが安価である、導入・停止などの俊敏性に優れている、スペック・台数などの弾力性がある、被災等への信頼性が高い、といったものがある。ただし、セキュリティなどの不安点もあり、利用用途や収容するデータに応じた、プライベートクラウドとの使い分けが重要な課題となってきている。

4. ハイブリッドクラウドという現実解

昨今、注目が集まりつつある「ハイブリッドクラウド」は、用途に応じてパブリッククラウドとプライベートクラウドを使い分ける手法である。

パブリッククラウドは、Webフロント、キャンペーン等の短期利用、バックアップ、ビッグデータ活用などに利用し、プライベートクラウドは、個人情報等のデータ収容、特殊なシステム要件対応、可用性要件などに利用する。

ニフティクラウドは、国内最大級のパブリッククラウドを提供しており、多彩なハイブリッドクラウドを実現している。

5. クラウドでビジネスを変える

情報システム部門は、ハイブリッドクラウドを活用することで、「コスト」「俊敏性」「弾力性」「信頼性」を実現し、ビジネスに貢献するIT基盤を業務部門に提供することができる。

（技術委員会）



第17回「技術研究会」発表会開催

日 時：平成25年12月4日（水）15：30～17：10
場 所：大分商工会議所ビル 6F大ホール

技術委員会が主催する平成25年度「技術研究会」発表会が開催されました。

この研究会は、毎年会員各社の中堅および若手の技術者が集まってソフトウェアの技術研究を共同で行うもので、今回で第17回目となります。

今年度は「アジャイル」、「マッシュアップ」の二つの研究部会を設けて募集を行い、大分大学大学院生を含め、12名の参加者により、部会ごとに具体的なテーマを決めて実際の研究活動を行ってきました。

発表会では、昨年に引き続き産学連携をより深める取り組みとして、大分大学の「研究シーズ」を紹介していただきました。

今回の大学研究シーズ発表内容は以下の通りでした。

●大学研究シーズ発表

テーマ：「クラウドコンピューティング時代における
ログ管理・分析システムの研究とその活用」

発表者：大分大学工学部 知能情報システム工学科
助教授 池部 実氏

多種多様なログデータを統一的に管理する処理可能なシステムの研究とログデータの活用を収集・蓄積・分析の3フェーズでとらえつつ、複数のログと突き合わせることで有用な情報が得られる可能性があることなど、興味深い内容を発表いただきました。

続いて各部会のメンバーより、今年度行ってきた研究の成果を発表いただきました。今回の各部会の研究テーマと発表内容は以下の通りでした。

①アジャイル部会

テーマ：「アジャイル開発の実践と評価

～何故周囲で利用がされていないのか～」

内 容：アジャイル開発とは、変更があることを前提としてイテレーション（反復）開発を行っていき、実装・テスト・リリースを繰り返し開発を進める手法。ウォーターフォール開発との比較、システム開発を実践した感想と評価、導入に向けて、顧客の視点から見た利点や考慮すべき点などを紹介。



アジャイル部会

②マッシュアップ部会

テーマ：「マッシュアップを用いた

観光情報Webサービスの開発」

内 容：マッシュアップとは、複数のAPIを組み合わせて、ひとつのWebサービスを開発する手法。SNSの台頭に伴うWebAPIの増加に対応した観光情報Webサービスのアプリケーションを作成。作成経験を踏まえたメリット・デメリットや今後の展望などを紹介。

各部会とも、本務の傍ら十分な時間が取れない中での研究活動であったと思われませんが、いずれも新しい技術動向に対して精力的に研究し、実業務への影響や新たな事業展開の可能性を視野に入れた前向きな取り組み姿勢がうかがわれました。

最後に、清水委員長より講評とお礼を申し上げ、各部会の代表者に対して研究活動の労をねぎらいました。

なお、各部会の発表資料は当協会のホームページにて公開しております。

(技術委員会)



マッシュアップ部会

第20回 OISA研修委員会研修の実施

会員各企業従業員の皆様の技術力アップを目的とした技術研修会も今回で20回目を迎えました。今年度の研修は、昨年3月に行った研修ニーズのアンケート結果から実施要望が最も多かった2講座を選定し、実施しました。

大分県産業創造機構様との共催である「プロジェクトマネージャ研修」は、ニーズが高かったことから昨年に引き続きの開催です。PMBOK（プロジェクトマネジメントの知識体系。事実上の標準）の5つのプロセスエリアと9つの知識エリアから、「いつ」「何を」「どうするか」といった知識の習得を目標に、演習を交えて実施しています。

また、JISAの補助金を受けて開催したOISA主催の「情報セキュリティマネジメント実践研修」は情報セキュリティマネジメントを学習し、業務における情報セキュリティのマネージャーや会社の情報セキュリティリーダーになれる知識と技術を身につけることを目的に実施しました。こちらも演習を交えた形で主にマネジメントの面からのポイントを解説していただいています。

いずれの研修も受講者の方から受講後のアンケートで講義内容についてのご意見やご要望もいただきましたので、次回の研修運営に反映していきたいと思えます。

来年度も多くの方のご参加をお待ちしています！



講座名	実施日	募集人数	参加人数（非会員）	参加企業数（非会員）
ITスペシャリスト育成事業 プロジェクトマネージャー研修	平成25年 10月23日(水)～25日(金)	15人	15人	8社
情報セキュリティ マネジメント実践研修	平成25年 11月13日(水)～15日(金)	15人	10人（1）人	6社（1社）

平成25年度 第1回視察研修旅行

日程：平成25年8月29日～30日
視察先：JR九州(株)熊本総合車両所・(株)田中商店
アクトビーリサイクリング(株)
JNC(株)水俣製造所
参加会員：11社18名

平成25年度第1回視察研修旅行は無事に終了しました。視察先は下記のとおりです。

JR九州(株) 熊本総合車両所は、JR九州の新幹線専用車両基地です。新幹線のN700系と800系についての説明を受けた後、台車検修場にて車両の検修設備や検修の様子を見学し、検車庫にて新幹線の車両の外装及び内装を見学しました。

(株)田中商店は、水俣市にあるビンのリユース・リサイクル工場です。ビンのリユース・リサイクル事業について説明を受けた後、工場にてビンのリユース・リサイクル設備とビン洗浄の様子を見学しました。

アクトビーリサイクリング(株)は、水俣市にある家電のリサイクル工場です。家電のリサイクル事業について説明を受けた後、工場にて家電のリサイクル設備と冷蔵庫・洗濯

機・エアコン・テレビ・パソコンのリサイクルの様子を見学しました。

JNC(株)水俣製造所では、液晶、シリコン、化学肥料、化粧品等の化学製品製造の説明と、環境問題への取り組みの説明を受けた後、バスにて工場敷地内を回り工場施設を見学しました。

(企画委員会)



JR九州熊本総合車両所検車庫内にて



ビンリユース・ビン洗浄作業説明風景

第22回

サウンズコンテスト

日時：平成25年10月5日（土）13：30～17：00

会場：iichiko総合文化センター 映像小ホール（地下1F）

ON THE COMPUTER

今年で22回目を迎えたサウンズコンテストON THE COMPUTERは、10月5日（土）に大分市のiichiko総合文化センター 映像小ホール（地下1F）で開催されました。

今回の応募曲は229名260曲を数え、その中から厳選なる予選を通過したフリー曲部門23曲、トリニータ応援歌部門4曲、その他応援歌部門2曲の合計29曲で本審査を行いました。

今回は、新たな試みとして「おおいたITフェア」との共催により、「おおいたITフェア」の会場へUstreamによるLIVE中継を行いました。審査会場の生の映像を配信したところ、多くの来場者の興味を引くことができました。

「おおいたITフェア」の相乗効果と、多くのメディアで取り上げていただき来場者は132名と、例年通りの盛り上がりとなりました。



小野敬一理事挨拶



会場風景



UstreamによるLIVE中継



ミニコンサート（オカリナ）

審査結果

	氏名	年齢	地区	タイトル
グランプリ	富安優杜	18	神奈川県	Aufheben
フリー曲部門 1位	増岡郷太	20	東京都	灯火（ともしび）
フリー曲部門 2位	大田由優菜	21	神奈川県	喜びの光
フリー曲部門 3位	金城工	20	大分市	Poseidon
トリニータ応援歌部門 最優秀賞	吉野伸哉	22	大分市	We Love TRINITA
応援歌部門 優秀賞	小迫剛	70	大分市	Go! Trinita
審査員特別賞	宮城宏典	29	兵庫県	幸福の食卓

今回も前回に続きインターネットにより全国的に作品の応募を募ったことで、今までにない応募数となり、更にレベルの高い激戦となりました。その厳しい競争を勝ち抜き、みごとグランプリに輝いたのは、神奈川県の富安優杜さんの作品“Aufheben”でした。

この作品は、「メロディ・コード・ベースがそれぞれ異なる和音を奏でており、普通は不快な音に聴こえるものを、上手く音を重ねて調和させ一つの曲を成り立たせる」というコンセプトで作曲されており、非常に素晴らしい出来栄でした。

トリニータ応援歌

今回も、大分フットボールクラブの後援による「トリニータ応援歌部門」を実施しました。今シーズンはJ1へ復帰しながらも残念ながら結果を残せませんでしたが、今後の活躍を期待する気持ちのこもった楽曲が印象的でした。

最優秀賞に輝いたのは、大分市の吉野伸哉さんの作品“**We Love TRINITA**”で、昨年度に続き二度目の受賞となりました。

この曲は、来シーズンのホームゲーム開幕戦前に大分フットボールクラブへ贈呈され、向こう一年間、大分スポーツ公園総合競技場（大分銀行ドーム）で開催される大分トリニータのホームゲームのBGMとして使われることになっています。観戦に行かれる方は、試合前に流される音楽にも是非ご注目下さい。

最後に、応募曲の編集、LIVE映像の配信、会場設営等で大変ご苦勞をおかけした日本文理大学関係者様、また、今回も多くの後援・協賛をいただきました各社様にも紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(イベント委員会)

※後援・協賛いただいた企業、団体

大分フットボールクラブ、日本文理大学、大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、大分ケーブルテレコム、Oita Sounds Creator 協会、IVY総合技術工学院、KCS大分情報専門学校、西日本電信電話（順不同）



グランプリ 富安 優杜さん



フリー曲部門第一位 増岡 郷太さん



トリニータ応援歌部門最優秀賞 吉野 伸哉さん



田村洋彦審査委員長の講評



入賞者の方々

審査委員

	氏名	審査歴	備考
審査委員長	田村 洋彦	18回目	大分大学名誉教授（音楽科）・東アジア作曲家協会顧問
審査委員	久保田 栄子	12回目	Oita Sound Creator協会 事務局長
審査委員	津行 孝充	5回目	大分県情報サービス産業協会会員（株オーイーシー）
審査委員	清水 慶彦	2回目	大分大学 教育福祉科学部 講師

第19回 OISAボウリング大会開催

◇日時：平成25年11月27日(水) ◇場所：OBSボウルにて

11月27日（水）、イベント委員会主催によるボウリング大会が、OBSボウルにて22社36チーム144名の参加を得て盛大に開催されました。

競技は、1チーム4人で構成され、2ゲームのトータルスコアで団体戦と個人戦が競われました。

競技終了後表彰式が行われ、森会長の挨拶に続き上位入賞者の表彰と賞品の授与が行われました。また、上位入賞者のスピーチと記念撮影があり、和やかな雰囲気で大회를終了しました。

今大会は、九州東芝エンジニアリングAチームが大銀コンピュータサービスAチームの7連覇を阻止し、7年ぶりの優勝を勝ち取りました。

(イベント委員会)



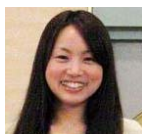
優勝した九州東芝エンジニアリングAチームと森会長

団体戦の部

順位	チーム名	総得点
優勝	九州東芝エンジニアリングA	1,320点
準優勝	メルハンコンピュータシステムA	1,271点
3位	大銀コンピュータサービスA	1,251点
4位	KCS大分情報専門学校A	1,226点
5位	コンピュータ・エンジニアリング	1,190点
6位	オーイーシーA	1,187点
7位	鶴崎海陸運輸	1,138点
8位	大分NSソリューションズA	1,111点
9位	メルハンコンピュータシステムB	1,110点
10位	IVY総合技術工学院A	1,101点



男子ハイゲーム賞	
中西 利彦さん (メルハンコンピュータシステム)	365点



女子ハイゲーム賞	
玉井 純子さん (九州東芝エンジニアリング)	354点



新年例会のご案内

1. 日 時 平成26年1月22日（水）15：30より（受付 15：00より）
2. 場 所 トキハ会館 5階ローズの間 大分市府内町2丁目1番4号（097）538-3111
3. 新年例会
 - (1) 新年挨拶 15：30～16：00
 - (2) 特別講演 16：00～17：30
 講師 (一社)大分学研究会代表理事 榎本 譲司 氏
 演題 「瀬戸内を活かしてきた大分の先人たち」
 - (3) 新年祝賀会 17：30～